



お江戸舟遊び瓦版 1062号

水彩都市江東 ころろ美しい日本の再生 安全・安心まちづくり
お江戸観光エコシティ・お江戸舟遊びの会 江東区千田 13-10

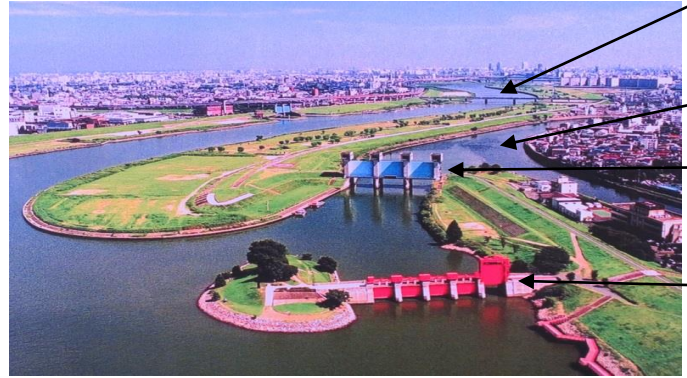
赤水門(旧岩淵水門)の重要文化財指定を考えるシンポジウムとEボート体験

日時：10月12日(通水100周年記念日)

場所：荒川知水資料館・アモアホール

主催：荒川放水路通水100周年事業市民実行委員会
はじめに：

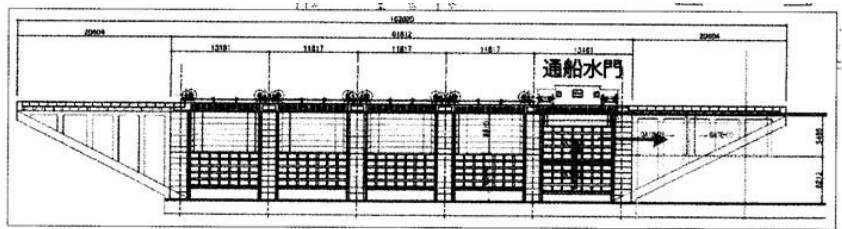
明治43年の関東地方に大きな被害をもたらした大水害を切欠に荒川放水路が建設され、隅田川への流下調整水門：旧岩淵水門(赤水門)が建設された。その後、東京の水害を防いできたことから重要文化財に指定された。



講演「旧岩淵水門の歴史的・技術的価値」

山口隆太郎(北区飛鳥山博物館)

- 昔、荒川沿岸の集落では、水害から生命財産を守るために、盛り土した屋敷地を造り、洪水に備えて舟まで用意していた。一方で、荒川の氾濫は、上流から肥沃な土壌をもたらし、荒川と共に暮らす工夫が、長年積み上げられてきた歴史がある。
- 荒川改修工事は、埼玉県深谷から東京湾に至る大河川改修工事で、川の拡幅・浚渫・護岸工事を行い、岩淵から東京湾までに新たな川(放水路)を造って荒川の氾濫を防ごうとするものだった。工事は大正2年、用地買収箇所から着工し、幅500mの浚渫土量は東京ドーム18杯にもなった。パナマ運河建設工事に係わった青山士が参加し、当時としては珍しい鉄筋コンクリート造りの水門で、青山は内村鑑三に師事する技術者で、多大なる犠牲と労役を払った仲間への祈念碑を作った。
- 4門のゲートは電動巻き上げ機で開閉し、通船水門の門扉は電動巻き上げ機を積んだ台車を移動して引き上げ、常時は袖壁の中に収納する工夫された構造になっていた。
- 昭和57年、地盤沈下と老朽化対策として、新しい岩淵水門(青水門)が300m下流に造られた。



パネルディスカッション

コーディネーター：大平一典(あらかわ学会理事長)、パネリスト：石渡良憲(岩淵まちづくり協議会)、織戸龍也(岩淵家守舎)、山口隆太郎(前出)、西山仁(北区まちづくり推進課)、菊田友弥(荒川下流河川事務所長)

- 青山士はM44年に帰国し、工務課長を経て、初代荒川河川下流事務所長になった。
- 荒川赤水門を残す検討が行われ、地域の運動が盛り上がり、その後重要文化財になった。
- 昔は、岩淵水門自治会があるなど地域との関係は深く、昭和30年代は貸しボート屋もあった。
- 昔の宿場町岩淵の空家を活かしたリノベーションを！
- 地域に愛されている荒川水門を大切に維持したい。

所感：東京の下町を洪水から守ってきた荒川・岩淵水門が100周年を迎え、重要文化財になった。地球温暖化や30年に70%とも言われる首都直下型地震にも人々の安心安全を守る水門であって欲しい。(文責 中瀬)



Eボート体験

東京土建江東支部 自主防災組織「れすきゅうこうとう希望」防災学習

日時：10月13日 9:30~12:00

所：東京土建江東支部会館会議室

開会：希望リーダー 野田副委員長

講演：江東区の防災対策「自分や家族を助けるために」

江東区危機管理室 岩田防災課長

① 石川県能登半島地震の ANN ニュースビデオ

生々しい災害の映像で、災害を実感させられた。

② 想定される災害：都心南部直下地震

死者 401 人、避難者 15 万人、帰宅困難者 23 万人、**液状化**：区内の大半で発生、

・ **津波**：2~3m、**荒川氾濫**；3 日間雨量 632mm を超えると発生、**水害適切行動**が必要

・ **避難所**：小中学校 69、都立高校、民間施設、

自主避難施設：スポーツセンター、文化センター、

・ **備蓄**：区内 25 カ所で、備蓄品は多くはない。 水；区民 43 日分、応急水栓・消火栓の活用、

・ **マンション防災**：在宅避難、エレベータ問題、長周期振動、地域防災担い手若手育て推進

質疑：備蓄は避難所でもらう。都は下水の排水能力強化推進している。



話題提供：「江東 5 区マイナス地域を襲う巨大水害」 中瀬

- ・ 国交省荒下『荒川氾濫』を上映、マイナス地域水害・災害を自分事化して欲しいと指摘。停電・断水・交通マヒと共に、1 階か地下階にあるスーパー・コンビニに依存する住民の**食生活崩壊**の可能性がある厳しい事態が。
- ・ 中央大学有川研・津波避難支援ソフト (TBS ビデオ) 三重県紀宝町で進められている高台への避難ルートをスマホで示す『高潮避難支援システム』づくりを住民と研究室が協働開発の実例を報告した。
- ・ **砂町地域水害避難支援システムづくり**：江東区の第一歩として事例研究を有川研が進めているが、**地域住民との連携が大事な段階**になっている。江東区中の避難支援システムとするためには、区、社協、住民、企業、災害ボランティア等の連携・協力で、集合住宅や企業ビルの**浸水しない高い場所・避難場所**が必須。特に社協にリーダーシップをとって頂き、誰ひとり取り残さない SDG s 精神で江東 5 区マイナス地域水害避難支援システムを作り上げたい。



今後の活動について、行動提起 名越書記

① **行動提起**：安心安全な住まいづくり・まちづくりの担い手として地域社会と防災減災活動を今後展開する。

② 東京土建の出番としたいと、東京土建として**チーム NAMAZU** を 2013 年に立上げた。江東支部としては、江東版「**れすきゅうこうとう希望**」を整備展開していきたい。

③ **東京土建防災マニュアル**：

基本理念；人命保護、組合財産、防災事前対策、近隣への協力、危機管理体制

・ 東京土建が 3・11、大型台風、コロナを契機に、防災体制づくりに取り組み始めた。

・ 地域の安心安全に組織的に与していくとの強い方針で前進したい。

5. **閉会**： 仕事対策部長・塚越常任

・ 江東支部で地元にもマッチした**独自の防災支援対策体制・マニュアル作り**を進めて行く。

所感：東京土建江東支部の防災学習会に参加した。土建は江東区と**防災協定**を結ぶ等地元にもマッチした防災支援体制づくりを進めている。江東区防災課長が現状を報告され、土建が**れすきゅうこうとう希望**を立ち上げた。江東 5 区マイナス地域防災に大きな“**希望**”が見えてきた。(文責 中瀬)